

再評価結果（令和4年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・技術課
担当課長名：長谷川 朋弘

事業名：一般国道41号 <small>おおさわの とやまみなみ</small> 大沢野富山南道路	事業区分：一般国道	事業主体：国土交通省 北陸地方整備局
起終点：自：富山県富山市 <small>とやま にれはら</small> 檜原 至：富山県富山市 <small>とやま くりやま</small> 栗山	延長：12.0km	
事業概要：国道41号大沢野富山南道路は「交通混雑の緩和や交通事故の削減」、「物流の信頼性向上や冬期交通の安全性確保」、「第三次医療施設等へのアクセス向上」などを目的とした、延長12.0kmのバイパス事業である。		
H26年度事業化	H23年度都市計画決定	H29年度用地着手
R元年度工事着手		
全体事業費	約380億円	事業進捗率 (令和3年3月末時点)
	14%	供用済延長 — km
計画交通量	8,000～26,100台/日	
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) 1.7 (残事業) 2.1	総費用：(残事業)/(事業全体) 294/361億円 (事業費：233/299億円 維持管理費：62/62億円)
	総便益：(残事業)/(事業全体) 610/610億円 (走行時間短縮便益：481/481億円 走行経費減少便益：96/96億円 交通事故減少便益：34/34億円)	基準年： 令和3年
感度分析の結果：(事業全体) 交通量：B/C=1.5～1.8(交通量±10%) (残事業) 交通量：B/C=1.9～2.3(交通量±10%) 事業費：B/C=1.6～1.8(事業費±10%) 事業費：B/C=1.9～2.3(事業費±10%) 事業期間：B/C=1.5～1.9(事業期間±20%) 事業期間：B/C=1.9～2.2(事業期間±20%)		
事業の効果等： <ol style="list-style-type: none"> ①物流の信頼性の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・中京圏からの医薬品製造で使用する有機溶剤等の輸送は、東海北陸自動車道に危険物積載車両通行禁止区間があるため、主に国道41号を利用。ただし国道41号岩稲～西笹津間では、斜面崩落等の災害危険箇所が存在。 ②冬期交通の安全性の確保 <ul style="list-style-type: none"> ・国道41号は、富山河川国道事務所管内の直轄国道の中でも冬期の堆雪路肩が確保されている区間の割合が少ない。特に大沢野富山南道路の現道区間はその割合が1割以下となり、積雪時は大型車のすれ違いも困難となっている。 ③第三次医療施設等へのアクセス向上 <ul style="list-style-type: none"> ・第三次医療施設の富山県立中央病院は県内の医療の要であるとともに岐阜県からの搬送実績もあり、国道41号は救急搬送時の重要路線となる。 		
関係する地方公共団体等の意見： <p>地域から頂いた主な意見：富山高山連絡道路整備促進期成同盟会や富山・岐阜県等から整備促進の要望を受けている。</p> <p>知事の意見：事業継続に同意する。なお、今後ともコスト縮減に努め、早期に効果が発現されるよう整備促進に格段の配慮をお願いしたい。</p>		
事業評価監視委員会の意見：審議の結果、再評価および対応方針（原案）のとおり事業継続することが妥当。		
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等：前回事業再評価時以降、周辺に大きな社会経済情勢等の変化はない。		
事業の進捗状況、残事業の内容等： <ul style="list-style-type: none"> ・事業の進捗状況：用地進捗率21%、事業進捗率14%（令和3年3月末時点） ・残事業の内容：橋梁工事、改良工事等 		
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等： <ul style="list-style-type: none"> ・道路設計、用地取得、改良工事及び橋梁工事を推進し、早期開通を目指し整備を進める。 		

施設の構造や工法の変更等

- ・建設発生土の有効活用や新技術の活用等により、コスト縮減を図る。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

当該事業は、現時点においても、その必要性、重要性は変わっておらず、事業進捗の見込みなどからも、引き続き事業を継続することが妥当であるとする。

事業概要図



- ※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
- ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。